



ひらぎし

札幌市立平岸小学校
令和8年10月9日
全国学力学習状況調査
特別号

「令和8年度 全国学力・学習状況調査」 本校6年生の調査の結果概要等のお知らせ

令和8年4月23日に、全国の小学6年生を対象として「令和8年度 全国学力・学習状況調査」を実施しました。本調査は、**全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的**としています。

本校6年生の個人の結果については、6年生に配付しておりますが、この紙面では、本校6年生全体の「調査結果概要」と「今回の調査における課題」及び「学びの改善の方向」をお知らせします。このうち、**「課題」につきましては、6年生だけの課題としてではなく学校全体の課題として捉えておりますので、全学年を通じて「改善の方向」に向かって取り組んで参ります。**

なお、この調査結果が本校児童の状況や実態のすべてを表しているわけではありません。今回の結果は、児童の学力の特定の一部であることをご理解いただきたく存じます。

全国学力・学習状況調査の内容

①教科に関する調査

【国語】・【算数】（調査する前学年までに含まれる指導事項）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

②生活習慣や学習環境に関する質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査



【国語・算数】調査の結果概要及び改善の方向

本校の結果概要

今回の調査における課題

改善の方向

【国語】

<知識及び技能>

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

全国平均を下回っている。

情報の扱い方に関する事項

全国平均を上回っている。

我が国の言語文化に関する事項

※今年度は出題なし

<思考力、表現力、判断力等>

「話すこと・聞くこと」

全国平均とほぼ同程度であるがやや上回っている。

「書くこと」

全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」

全国平均を上回っている。

【算数】

「数と計算」

全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

全国平均を下回っている。

「測定」

全国平均を上回っている。

「変化と関係」

全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「データの活用」

全国平均を下回っている。

▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。

▲比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。

▲情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

▲引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

▲考えをまとめて書く問題の「無回答率」が約 11%となっており、他の問題と比べかなり高い数値であること。

▲示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述すること。

▲異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述すること。

▲立方体の体積の計算による求め方について理解すること。

▲二次元の表から、条件に合う数を読み取ること。

◎ “書く” 学習活動の充実

- ・同音や同訓の漢字に注意し、言葉の意味を考えて文の中で正しく使う学習活動の充実。
- ・作文、感想文などの自分の思いや考えを文章に表す学習活動の充実。
- ・引用したり表現を工夫したりして、相手に自分の考えを伝わりやすくする文章を書く学習活動の充実。

◎ 考えを“伝える” 学習活動の充実

- 解を求めるだけでなく、その考えに至る過程を図や言葉を用いて説明したり記述したりする学習活動の充実。
- 求め方を考える際に、表やグラフ、数直線等を用いながら説明し合う活動を取り入れるなど、数量の関係を捉える活動の充実

【質問紙調査】 調査の結果概要と改善の方向

※割合は、1.「当てはまる」、2.「どちらかといえば当てはまる」、3.「どちらかといえば当てはまらない」、4.「当てはまらない」の4段階のうち、「当てはまる」と回答した児童の割合です。（青字は全国平均を5ポイント以上下回る項目）

<生活習慣に関わって>

質問項目	平岸小	北海道（公立）	全国（公立）
朝食を毎日食べていますか。	81.3%	80.2%	83.1%
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	44.0%	40.0%	40.5%
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	50.5%	54.5%	55.9%
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか。（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）	34.1%	26.8%	21.9%
※1日4時間以上SNSや動画視聴などをしている児童の割合			

平岸小の子どもたちの生活リズムについては全国平均とほぼ同程度となっていますが、起床時刻については不安定な子が全国平均よりやや多いようです。これは昨年度の本校の結果と比較しても低い数値になっています。

一方で、SNSや動画視聴等の時間については、平日1日に4時間以上見ていると回答した児童の割合が、北海道・全国の平均よりも大幅に長い時間になっています。これが就寝時刻や起床時刻に影響を与えている可能性が高いです。単純に睡眠時間が削られるだけでなく、デジタル機器から発せられるブルーライトは、子どもの成長に不可欠な睡眠に影響を与えていると言われています。現代の生活には欠かせないデジタル機器ですが、上手な付き合い方を考えていく必要があります。

<自己認識等に関わって>

質問項目	平岸小	北海道（公立）	全国（公立）
自分には、よいところがあると思いますか。	24.2%	42.3%	43.6%
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	53.8%	56.5%	53.4%
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	49.5%	55.5%	54.7%
将来の夢や目標をもっていますか。	45.1%	59.6%	58.6%
学校に行くのは楽しいと思いますか。	44.0%	44.0%	48.0%
友達関係に満足していますか。	57.1%	60.9%	62.7%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	61.5%	72.1%	70.8%
あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。	31.9%	39.6%	39.6%
人が困っているときは、進んで助けていますか。	38.5%	48.4%	47.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	65.9%	85.9%	81.1%

青い部分は全国平均より5ポイント以上下回っている項目です。自己肯定感が低く、現状に満足とは言えない子が多い結果となっています。自分で自分を大切にできない傾向は、他者への関わり方についても影響を及ぼします。今年度からたてわり活動を改善・充実させ、子どもたちのつながりを深めようと取り組んでいるように、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを継続していきます。また同時に、教職員の校内研修を充実させていきます。子どもたちが「わかった」「楽しい」と思える授業づくりはもちろん、いじめ対策や学級経営についても研修を深めていくことで、子どもたちが認め合い支え合える学級づくりに努めてまいります。

<学習に関わって>

質問項目	平岸小	北海道（公立）	全国（公立）
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。）※1日1時間以上勉強している子の割合	35.2%	46.0%	49.9%
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。）※1日1時間以上勉強している子の割合	28.6%	37.2%	39.0%
学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。	31.9%	42.2%	40.6%
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	22.0%	31.6%	31.4%

学習時間については、全国・全道平均と比較すると平日、土日祝日どちらにおいても短い傾向があります。「学年×10分～15分」が小学生の家庭学習時間の目安とされています。低学年はまずは机に向かう習慣を、高学年は中学校に向けて自立した学習を意識して、家庭学習に取り組んでいくことが大切です。学校では、学習展開や教材の工夫などを通して、**子どもの心を動かし、自ら学びに向かいたくなるような学習を目指していきます。**ご家庭でも、お忙しい中とは思いますが、お子さんの学校での学習について短時間でも話題にし、家庭学習に向かう意欲付けへご協力をお願いいたします。

<ICTの活用に関わって>

質問項目	平岸小	北海道（公立）	全国（公立）
○あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか	41.8%	54.3%	49.5%
○あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか	60.4%	62.6%	59.4%
○あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	31.9%	34.9%	32.8%
○あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	45.1%	53.2%	44.9%

ICTの活用に関わる項目は肯定的な回答が多くなり、文章を作成すること以外は全国平均と同程度となっており、日常的にChrome bookを使った学習に取り組んでいる成果が表れてきています。ただ、先述したように「書く力」が十分に身に付いていないという課題が今回の調査で明らかになりました。デジタル機器での学びに偏ることなく、**自分の手を動かし、人と関わりながら学ぶよさと、PCやタブレットを活用した学びのよさの両方を、子どもたちの活動のねらいと身に付けさせたい力に合わせて効果的に使い分けることが大切**だと考えます。

これらの調査で得られた成果や課題については、学校全体で共有し、後期の教育活動に生かしてまいります。子どもたちのよりよい成長につながるよう努めてまいりますので、後期もどうぞご協力をよろしくお願いいたします。

※このプリントは学校ホームページにも掲載してあります。また、札幌市ホームページには、全体の調査結果も掲載してあります。